

2020 年度 授業シラバス執筆の手引き

〈授業の魅力を分かり易く伝えるための書き方〉



関西学院大学

目次

はじめに（必ずお読みください）	4
I 解説セクション	6
授業目的【必須項目】	7
到達目標【必須項目】	13
授業の概要・背景	19
成績評価【必須項目】	21
成績評価備考、成績評価確認	22
授業計画【必須項目】、授業外学習【必須項目】	23
授業方法【必須項目】	26
備考、関連科目、教科書、参考書	27
検索キーワード、添付ファイル、URL リンク	28
II 入力セクション	30
授業シラバス登録ページへのアクセス	32
授業の基本情報の入力	34
入力した情報の保存／提出／修正	37
一度作成した授業シラバスのコピー	39
入力文字についての注意	41

はじめに（必ずお読みください）

1. 本手引きについて





本手引きは、関西学院大学で授業を担当されている全教員（非常勤講師含む）を対象に作成したものです。授業担当の先生は、シラバスを作成する前に必ず本手引きの内容を確認してください。

2019年度シラバスより、“授業目的”と“到達目標”の英文欄を新設し入力をお願いすることになりました。英語入力の記入例を示していますので、参考としてください。

なお、その他の項目についても記入例を示しておりますが、必ずしも記入例通りとしていただく必要はありません。参考として活用してください。

2. この手引きの構成と読み方

本手引きは、シラバスの各項目について詳細を説明する「解説セクション」と、実際にシラバス入力システムの画面に沿って入力する「入力セクション」にわかれています。pp.6～28が解説セクションで、p.30からが入力セクションです。

解説セクション各ページの上段部に記載されている  記入方法と  記入例を一読してから記入をしてください。点線以下は、 参考資料（少し詳しい解説）になっています。項目によっては参考資料が設けられていない場合もあります。また、さらに学びたい方は、 参考図書を参照してください。

この部分を
読んでから書く

記入方法

2019年度シラバスから、“授業目的”（p.7）を簡潔に書くことを推奨しています。そこで書くことのできなかつた授業内容の学術的背景や授業内容選定に至った経緯、あるいは学生がこの授業の内容を学ぶことにどのような意味があるのか（本授業を受講する意義）等をここで自由に説明してください。文字数制限は、全角1300文字、半角4000文字です。

記入例①

この授業では、主に Information and Communication Technology（ICT：情報通信技術）を使った教育方法について学びます。ICTにはタブレットや電子黒板など様々なデバイスがあり、小学校から高校まで全ての校種で導入が進められています。

教師を目指す人にとって、ICTに関する知識を持ち、使いこなす事ができる力を修得することは、必須です。ICTに関する知識や技術の有無は教員採用試験の筆記問題や実技で問われるのみならず、日々の授業でも積極的に利用することが求められています。本授業では、授業目的に応じたICTの選定について考え、まだ実際に活用する経験を通して、ICTの基礎知識・技術の修得を目指しています。

教師1年目から素晴らしい授業ができるよう、基礎的なICTの知識・技術をこの授業で定着させましょう。

参考資料（少し詳しい解説）

“授業の概要・背景”は、2019年度シラバスから新規で設けられた項目ですが、実際には新しい内容ではありません。これまで、授業内容選定にいたった経緯（背景）や本授業で学ぶ意義は、従来版のシラバスで言う“授業目的”もしくは“到達目標”に記載されていました。それらの内容は学生が授業内容をより深く理解する上で重要ではあるものの、記載位置が担当教員によって異なるため、学生自身のニーズに沿った授業かどうかを判断するのに、学生は時間を要していたのではないかと考えます。

I 解説セクション

授業目的【必須項目】



記入方法

この欄には、下の例文を参考にワンセンテンスで書くなど、授業目的を分かりやすく記入してください。その際、「この授業の目的は、〇〇〇である」といった文の〇〇〇に入る内容は、すべて主語を学生にし、動詞を明確にしてください。文章が学生を主語に設定した状態で記述されている場合は、主語自体を省略することは構いません。

日本語だけでなく、英語での表記もお願いします。



専門等の講義科目記入例 Lecture Courses

Ex. 1) 本講義の目的は、現代都市が抱える問題や政策課題を理解し、それに対し様々な学問的立場からアプローチすることを通して都市政策に関する分析、考察、提案する能力を高めることである。
The purpose of this course is for students to understand the problems and policy issues of modern cities, and to be able to analyze, consider, and make proposals for urban policies from various academic perspectives.

Ex. 2) 本講義の目的は、学生が主体的に、中世キリスト教世界の崩壊と宗教改革から、近・現代に至るまでのキリスト教史を学ぶことである。
The purpose of this course is for students to actively learn the history of Christianity from the collapse of the Medieval Christianity world, through the Reformation, and to the present day.

Ex. 3) 本授業では、受講生が経済情報処理入門レベルのアプリケーションや統計学を経済学で利用できるようになることを目的とする。
The purpose of this course is for students to obtain and be able to apply the knowledge and analytical skills needed for the Introduction to Economic Information course and their own economic analyses.

Ex. 4) 講義では生命科学の基礎的な内容を扱うことで、生物の分類、細胞の基本的な仕組み、現代生物学のハイライトである DNA からタンパク質の流れについての理解を深める。
The purpose of this course is for students to deepen their understanding of the basics of life science, such as classification of species, the basic cell structure and the functioning of organelles, and the transformation of DNA to proteins that is a major finding of modern biology.

Ex. 5) この授業の目的は、受講生が学術的な文章を書くスキルを修得することです。
The purpose of this course is for students to obtain the skills necessary for writing academic papers.



言語教育科目記入例 Language Courses

Ex. 1) 本授業の目的は、上級レベルのテキストを精読することによって、受講者が英文読解能力を向上させることである。また、英語圏で書かれた文学作品の文化的・社会的背景を理解することを目指す。

The purpose of this course is for students to enhance their reading ability and to enrich their understanding of relevant cultural and social backgrounds through the close reading of advanced literary works written in English.

Ex. 2) 本授業では、時事に関する英文の精読を行うことにより文構造がつかめるようになることを目的とする。

The purpose of this course is for students to improve their understanding the structure of English through the reading English articles on current affairs and contemporary issues.

Ex. 3) 本講義では学生がフランス語でコミュニケーションを取るための基本的な日常会話の語彙・文法を修得することと、話す（発音）技術の向上を目的としている。

The purpose of this course is for students to enrich their vocabulary, and grammar, and to improve their speaking and pronunciation skills, so that they can better communicate with others in French.

Ex. 4) 本授業では、受講生が英語の基礎力（TOEIC500点程度）を身に付けることを目的としている。

The purpose of this course is for students to obtain the basic English language skills equivalent to a TOEIC 500 score.

Ex. 5) 本講義では英語の文法現象を主な題材にして、生成文法における統語理論（文構造の理論）の基礎的理解を確認しつつ、実際の研究論文を読むことによってこの分野における分析の方法を学ぶ。

The purpose of this course is for students to understand the basics of syntactic theory (theory on sentence structures) of generative grammar and to learn analytical methods of this field through reading research papers.



実習科目・実験科目記入例 Practical Training and Laboratory Courses

<実習科目> Practical Training Courses

Ex. 1) この実習の目的は、計量的社会調査を企画・実施し、得られたデータを分析して成果を発表するまでの一連の作業を実習形式で体験することにある。

The purpose of this practical training course is for students to undertake sociometric research by planning and conducting survey, analyzing data, and presenting their findings.

Ex. 2) ソーシャルワーク実践教育の第一段階として、現場での実践教育のために必要な、基本的な知識、態度、価値について体験を通して学び、ソーシャルワーク実習、福祉社会フィールドワーク等に向けた心構えを持つことを目的とする。

The purpose of this introductory practical training for social work course is for students to obtain the basic knowledge, skills, and values to prepare them for advanced practical training and field work courses.

Ex. 3) 卒業研究に入る前に研究活動に必須となるプログラム（レイトレーシング技法）の作成を体験的に学習することである。

The purpose of this practical training course is for students to obtain the skills programming, such as ray tracing, which are needed for their undergraduate thesis research.

Ex. 4) すべての実習科目の基礎として、教育・保育現場（フィールド）の実践から学ぶ観点や基本的態度を、講義と実地体験（参観実習）を通して身につけることを目的とする。

The purpose of this course, as the basis for all practical training courses, is for students to become familiar with the viewpoints and fundamental attitudes of those associated with kindergartens and elementary schools through lectures and actual school visits.

<実験科目> Laboratory Courses

Ex. 5) この授業の目的は、建築環境にまつわる実験を通して、身体感覚と物理環境の関係について理解し、それを空間提案に反映するための力を醸成することである。

The purpose of this laboratory course is for students to conduct experiments related to architectural environment in order to understand the relationship between somatic sensation and physical environment and be able to make proposals for spatial designs.

Ex. 6) 本授業では遺伝子の構造と機能を解析する方法、および細胞分裂に伴いみられる現象を解析する技術の修得を目的とする。

The purpose of this laboratory course is to acquire the methodologies to analyze the structure and function of genes, as well as methodologies to analyze phenomena accompanying to cell division.

Ex. 7) 有機化学の実験を行うための基礎知識と基本操作について学ぶことが目的である。

The purpose of this laboratory course is for students to master the basic knowledge and techniques for advanced level organic chemistry experiments.

Ex. 8) 基礎物理学実験 I よりも準備と実験に時間をかけて、丁寧に解析を行うことにより、物理現象と物理法則の関係をより深く理解していくことを目的とする。

The purpose of this laboratory course is for students to go beyond the Basic Physics Experiments I Course by spending more time for preparation, experiments, and careful analysis to clearly understand the relationship between physical phenomena and theories.



Ex. 1) 本演習の目的は、計量社会学で用いられる分析手法について、その利用の現状と問題点を把握し、データと分析目的に適合的な分析手順を確立することにある。

The purpose of this seminar course is for students to understand the current status and limitations of analytical methods used in quantitative sociology, and to apply appropriate methods for given data and/or research purposes.

Ex. 2) 本演習の目的は、参加者各自が自分の問題意識にもとづいて課題を選び、キリスト教神学、特に歴史神学における発展的な知識を得る方法を用いて分析・考察を行い、研究することである。

The purpose of this seminar course is for students to conduct original research into a topic of their choosing related to by choosing research related to Christian Theology, and in particular Historical Theology.

Ex. 3) 生命反応を担う酵素などのタンパク質分子の構造学的な研究を行う事により、研究に対する姿勢、研究に必要な学力、能力を身につけることを目的とする。

The purpose of this seminar course is for students to obtain the knowledge, skills, and ability to conduct their own research by performing structural studies of protein molecules critical for chemical reactions in organisms such as enzymes.

Ex. 4) 人文演習 II は人文演習 I で学んだことを発展させるとともに、専修に即した基本的なリテラシーを身につけることを目的とする。

The purpose of the Humanities Seminar I is for students to develop their skills obtained in the Humanities Seminar I and master the basic literacy useful for their specialization of course-work.

Ex. 5) 本演習では、トヨタ自動車の会計情報ほか、多様な企業情報に触れ、企業の実情を把握するための基本的視点を養うことを目的とします。

The purpose of this seminar course is for students to cultivate basic viewpoints needed to understand the actual situation of companies by analyzing various corporate information such as accounting information of Toyota Motor Co.

参考資料（少し詳しい解説）

- ①カリキュラム上の位置付けに基づく授業目的を記入してください。
- ②目的をワンセンテンスで表現すると、学生はより明確に授業の目的を理解できます。“授業目的”の欄をシンプルにすれば、学生はより容易に内容を読み取れます。従来のシラバスでは、この欄に授業の目的を設定するに至った背景等が記述されていましたが、その部分は、“授業の概要・背景”という記入欄を別途設けましたので（p.19 参照）、そちらに記入することを検討してください。
- ③目的が複数あり文が長い場合には、1つひとつを1センテンスにまとめると、分かりやすくなります。目的が2～3つになっても構いません。
- ④主語は学生で固定になりますが、動詞は講義・演習等の授業形式や内容によって異なります。例えば次を参考にしてください。

知る (Know)	認識する (Recognize)	理解する (Understand)	感ずる (Experience)
判断する (Decide)	価値を認める (Accept)	評価する (Evaluate)	示す (Indicate)
考察する (Examine)	使用する (Utilize)	実施する (Practice)	適用する (Apply)
創造する (Create)	身に付ける (Gain)	議論する (Discuss)	表現する (Express)

- ⑤文部科学省の教育政策において、教育を捉える観点を「教員が何を教えるのか」から「学習者が何を学ぶのか、学習者は何ができるようになるのか」へと変換する必要性が求められています。それに伴い、教育に関する議論も学生を主語にした議論が促されるようになりました。
「教授する＝学ぶ」と捉えるのではなく、「実際に学習者が何を学ぶのか」を意識しながら授業を考える必要があると言われてしています。

参考図書

- 佐藤浩章（2010）『大学教員のための授業方法とデザイン』玉川大学出版
- 文部科学省（2012）『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて』中央教育審議会答申
- 無藤隆（2017）『新しい教育課程におけるアクティブな学びと教師力・学校力』図書文化

到達目標【必須項目】



記入方法

学期終了時に学生が修得しているべき事項を簡条書きにするなど、分かりやすく記入してください。到達目標は、1つに絞る必要はありませんが、最大でも5つ程度が分かりやすいとされています。到達目標は、1学期間の学習活動の結果到達した地点を表すため、例えば文末を「～できる」等としてください。日本語だけでなく、英語での表記もお願いします。



専門等の講義科目記入例 Lecture Courses

Ex. 1) 下記項目について修得することを到達時の目標とする。

- a) 情報を処理する際に必要となる倫理
- b) 経済学に必要なワープロと表計算ソフトの使い方
- c) 統計処理ソフト(R)を用いた経済分析に必要な統計分析方法
- d) Maple を用いた数式処理の基礎

Students will acquire an understanding of

- a) the ethics related to information processing,
- b) how to use word processing and spreadsheet programs for economics,
- c) how to use the statistical analysis software (R) for economic analysis, and
- d) how to use Maple for basic mathematical analysis.

Ex. 2) 以下の3点を授業の目標として設定しています。

- ・ 学術的な文章の構造に基づき文章を書くことができる
- ・ 学術的な文章を書くためのツールとして、トゥールミンモデルを使うことができる
- ・ 200字～2000字程度の学術的な文章を書くことができる

Students will be able to

- ・ write sentences based on academic sentence structure,
- ・ use the Toulmin Model for writing academic sentences, and
- ・ write academic essays 200 through 2000 letters in length.

Ex. 3) 本講義を履修することにより、生命科学の分子レベルの理解に必須な DNA、RNA、タンパク質に関する基礎的知識を習得すること、今後、化学の諸科目を履修する上で、生命科学に関する内容、用語を会得することを目標とする。

Students will obtain basic knowledge of DNAs, RNAs, and proteins, which are critical for molecular level understanding of life sciences. Students also will become literate in the basic content of life sciences for further course-work in chemistry.

Ex. 4) 参加学生各自が、人物、書物、土地、政治との関係、文化・学問との関係など、総合的な視点に基づき、キリスト教史の基本的知識を身につけることを目標とする。

Each student will be able to develop their basic knowledge and understanding of the History of Christianity based on a range of viewpoints from individuals, literary works, location, politics, cultures, and scholarship.

Ex. 5) 都市、特に現代都市の都市問題や政策課題を理解すること、都市政策に関して様々な学問的な立場からのアプローチがあることを知ること、都市生活・都市政策をめぐる諸課題に関して自立的、主体的に分析、考察、提言することができるようになるための手がかりを得ることが到達目標である。

Students will understand urban problems and policy issues, and the range of approaches to these issues from various academic standpoints, as well as obtain ability needed to actively and consciously analyze, consider, and make urban policy proposals.



言語教育科目記入例 Language Courses

Ex. 1) 本授業では受講生がワシントンポストと USA TODAY の記事計 28 本の精読を通して主要文法である項目分詞、助動詞、話法、比較、接続詞、特殊構文に関して理解することを到達目標とする。

Students will be able to understand basic grammar items such as item participles, auxiliary verbs, discourse, comparison, conjunctions, and special sentence structure by reading 28 articles from the Washington Post and USA TODAY.

Ex. 2) フランス語の基本アルファベットを読み書きできることおよび音節とイントネーション（全体疑問文、倒置疑問文、Est-ce que、Qu'est-ce que 型、感嘆文）の修得を目標とする。

Students will be able to read and write the French alphabet and master syllable and intonation (i.e. interrogatory sentences without interrogatives, inverted interrogatory sentences, Est-ce que type, Qu'est-ce que type, exclamatory sentences).

Ex. 3) この分野の文献を批判的に読めるようになることを目指す。

Students will be able to critically read papers from this research field.

Ex. 4) 英文を読んで、登場人物や描かれた情景を「視覚化」できるようになる。また、Kazuo Ishiguro の小説を精読し、その文化的・社会的背景などについて学び、考え、自分の言葉で表現できるようになる。

Students will be able to visualize characters and scenes while reading English texts. Students will also be able to, through careful reading, study, consider, and express their opinions on the cultural and social background of Kazuo Ishiguro's novels.



<実習科目> Practical Training Courses

Ex. 1) 以下を目標とする。

- a) 受け身ではなく、自らの主体性を発揮し学ぶ態度を身につける
- b) 広い意味での社会福祉の現場について基本的な知識を身につける
- c) 自分の周囲や社会で起こっていることに対して広い視野で観察することができるようになる
- d) 今後、フィールドワーク実習にいく学生が学ぶ科目であり（学外、社会における）社会性や協調性を習得する

Students will acquire

- a) preparation for active rather than passive learning,
- b) basic knowledge of the broad meaning of the reality of social welfare,
- c) the ability to observe and consider from broad viewpoints what is happening in their immediate surroundings as well as society more generally, and
- d) the sociability and cooperativeness needed for Field Work practical training courses as well as society outside of the university.

Ex. 2) 研究に用いるプログラミング言語(matlab)が使えるようになる。幾何光学理論に基づくリンクレベルシミュレーションプログラムの基礎を理解し、研究に必要となる基礎的なプログラム作成ができる。

Students will learn how to use programming language (i. e. matlab) for their research, as well as basic programs of link-level simulation based on geometrical optics theory. Students also will be able to make the basic programs needed for their own research.

Ex. 3) 計量社会学的技法（選択式の調査票調査以外の方法も含む：新聞やブログ、自由記述などのテキストデータ）を修得することが到達目標である。

Students will be able to master sociometric analysis techniques of various types of data, including non-multiple choice surveys or text data (i.e. newspapers, blogs, or free descriptions).

Ex. 4) 次を到達目標とする。

- 乳幼児の姿、保育活動、保育環境を観る視点を持つ
- 実習記録の意義と方法の基本を学び、客観的に記録できる
- 幼稚園・保育所・認定こども園における実習の共通点、相違点を知る
- 実習に臨むための基本的態度を身につけ、教員・保育士・保育教諭を目指す者としての自覚と責任感を養う
- 参観実習の体験と講義内容の関連について分析し、保育の学びにおいて理論と実践を往還することの意義や方法を理解する

Students will be able to

- develop their own views related to the conditions of infant and nursing care,

- understand the significance of and methods for recording their practical training, and actually record it objectively,
- understand similarities and differences among kindergartens, nursery schools, and certified centers for early childhood education and care,
- foster an awareness of and sense of responsibility towards practical training while seeking careers in teaching and/or childcare (i.e. school teachers, childminders, and nursery teachers), and
- analyze the relationship between their experience visiting schools and the content of lectures, and understand the significance of and methods for relating theory and practice in the field of nursery education.

<実験科目> Laboratory Courses

Ex. 5) 本授業では、次の点を到達目標とする。

- a. 建築形態と屋外環境の関係から建築環境の状況を予測し、それを正しく示すことができる
- b. 建築環境に関係する自然の諸要素のメカニズムについて理解し、それを空間に反映するための設計手法を提案できる
- c. 建築環境を可視化し、体感してもらえるような簡単な演示が実施できる

Students will be able to

- a. predict and properly express the architectural environment based on the relationship between the architectural form and outdoor environment,
- b. understand the elements of nature which are related to the architectural environment, and make their own design proposals reflecting their understanding of spatial environment, and
- c. visualize an architectural environment, and make simple proposals which communicate that vision experienced.

Ex. 6) 物共生器官の形成と共生変異体の解析。数理生物学による様々な生命現象のモデル化。分裂酵母(*S. pombe*)の基礎実験について理解する。これらを到達目標とする。

Students will learn to analyze the formation of plant symbiotic organs and symbiotic mutants. Students also will learn how to model biological phenomena based on mathematical biology. The course will also provide to students basic experimental techniques using fission yeasts.

Ex. 7) 有機物の分離と精製（蒸留・抽出・再結晶・クロマトグラフィー）、機器分析（NMR、IR、MSなど各種スペクトロスコピー）の解説と演習を通じて有機化学実験を行うための基礎的な知識を身につけることが到達目標である。

Students will be able to master basic knowledge and skills for the separation and purification (distillation, extraction, recrystallization, and chromatography) of organic materials, and instrumental analysis (various spectroscopy such as NMR, IR, or MS) for conducting advanced organic chemistry experiments.

Ex. 8) 種々の物理実験を正しく実施でき、物理学に対する理解を深めるとともに、精密な測定の手法や正しいデータ解析の方法・レポートの書き方等の基礎についてそれらを身に付けることが到達目標である。

Students will be able to master basic knowledge and skills for correctly conducting various physics experiments, properly measuring and analyzing the experimental results, and writing reports to enrich their understanding of physics.

★ 演習科目記入例 Seminars

Ex. 1) 研究に対する姿勢、研究に必要な学力、能力を身につけることを到達目標とする。特に、問題への取り組み方、問題解決能力の獲得を通して研究者としての基礎を確立することを重視する。

Students will acquire the knowledge, and ability to become successful researchers or scholars, and in particular to learn to develop and address research questions.

Ex. 2) 到達目標は受講生が各自の研究関心に基づいて問題設定を行い、データを収集し、適切な分析手法を用いて説明ができるようになることである。

Students will learn to develop research questions based on their academic interests, gather and analyze data using proper methodology, and present their findings.

Ex. 3) キリスト教神学に関する発展的知識、技能を修得することを通して参加者各自が研究結果を学術論文(1万字程度)にまとめることが目標である。

Students will acquire advanced knowledge and skills related to Christian Theology for writing their research papers (10,000 letters).

Ex. 4) 人文演習 II は人文演習 I で学んだことを発展させ、基本的なリテラシーを一層深く身につけると共に(1)図書館等で書籍や雑誌論文などの必要な学術情報を得る、(2)資料を作成しレジメを用いて口頭発表する、(3)テーマに沿って議論する、などのことができるようになる。

Students will further develop the knowledge obtained in the Humanities Seminar I, and enrich their basic literacy in (1) obtaining academic information from books and journals at library, (2) making oral presentations while preparing hand-outs, and (3) discussing a given theme.

Ex. 5) 本演習では、企業が作成・公開する財務諸表(決算書)に関する基本的な事項を春学期に学び、秋学期には各自で企業情報の調査と企業状況のプレゼンテーションを行い、上級年次において商学部の諸科目を履修するための基本的な思考力を養成することを目標とします。

Students will be able to understand basics of financial reports (financial statements) in the spring semester. In the fall semester, students will survey company information and present corporate situation. After then, they will get basic thinking skills to take courses of the school of business administration in the advanced year.

参考資料（少し詳しい解説）

① 到達目標は、授業目的の下位項目に位置付きます。そのため、授業目的をより細分化し、具体的に記入してください。文末を「～できる」にすると分かりやすくなります。図1は、授業目的が到達目標によって構成されていることを表したものです。

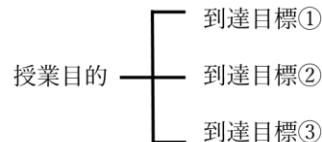


図1 授業目的と到達目標の関係性

②授業内容について何も知らない受講生に対して内容を細分化して到達目標として伝えるとなると、何をどのように書けばよいのか戸惑ってしまう時があります。そのような時は、まず自分が伝えたい内容を「学力の3要素」の観点から整理してください。文部科学省（2017）によって、学力は下記3つの要素で構成されていると定義づけされています。

要素Ⅰ：知識・技能の確実な習得

要素Ⅱ：（Ⅰを基にした）思考力、判断力、表現力

要素Ⅲ：主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

要素Ⅰの知識や技術は、学生が記憶すべき知識やできるようになるべき技術を意味します。学習を進めていくには、基本となる知識や技術は必須になります。1学期間の学習活動が終了した段階で、どの程度の知識・技術を修得していなければならないのかを示してください。

要素Ⅱは、自分の考えを表現する力、批判的、論理的に考える力、自分の考えに基づき、何らかの判断をする力を意味しています。要素Ⅰは知識伝達と、記憶や反復が基本的な学習活動になりますが、要素Ⅱは実際に受講生が考えた事を可視化したり、他者に説明したりする学習活動、事象をより多角的に捉える学習活動、1つを選択する学習活動など要素Ⅰとはずいぶん内容が異なります。

要素Ⅲは、他者と協力することを通して学ぶ姿勢を意味しています。授業において、他者で行う意見交換や協働作業等において積極的な姿勢の育成を促す場合は、要素Ⅲに該当すると考えられます。

参考図書

教育課程研究会（2016）『「アクティブ・ラーニング」を考える』東洋館出版社

溝上慎一（2014）『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』東信堂

文部科学省（2017）『高大接続改革の動向について』文部科学省高大接続改革 PT

(任意) 授業の概要・背景



記入方法

2019年度シラバスから、“授業目的”(p.7)を簡潔に書くことを推奨しています。そこで書くことのできなかつた授業内容の学術的背景や授業内容選定に至った経緯、あるいは学生がこの授業の内容を学ぶことにどのような意味があるのか(本授業を受講する意義)等をここで自由に説明してください。文字数制限は、全角1300文字、半角4000文字です。



記入例①

この授業では、主に Information and Communication Technology (ICT: 情報通信技術) を使った教育方法について学びます。ICTにはタブレットや電子黒板など様々なデバイスがあり、小学校から高校まで全ての校種で導入が進められています。

教師を目指す人にとって、ICTに関する知識を持ち、使いこなす事ができる力を修得することは、必須です。ICTに関する知識や技術の有無は教員採用試験の筆記問題や実技で問われるのみならず、日々の授業でも積極的に利用することが求められています。本授業では、授業目的に応じたICTの選定について考え、まだ実際に活用する経験を通して、ICTの基礎知識・技術の修得を目指しています。

教師1年目から素晴らしい授業ができるよう、基礎的なICTの知識・技術をこの授業で定着させましょう。




記入例②

近年、社会の情報化と共に学校教育においても情報通信技術の積極的な利用が文部科学省によって推奨されるようになってきました。これまでは、チョークと黒板が教師の主な利用ツールでしたが、コンピュータやプロジェクター、電子黒板など様々な電子ツールが用いられるようになっていました。こういった電子ツールを、Information and Communication Tool (ICT: 情報通信技術) と呼びます。

ICTは、教師の教え方や児童生徒の学び方にどのような変化を与えるのでしょうか。また、学校にはどのようなICTが常設させるべきなのでしょう。今後は、学校教育におけるICTの利用について考えていく必要があると言えます。

この授業では、今後学校教育に関わる人(主に教師として)が知っておかなければならないICTに関する基本的知識を得ると共に、目的に応じた適切なICTを選択する力の修得を目指します。この授業を受講することによって、情報化社会において教師に求められるICTリテラシーを身に付けてください。

 参考資料（少し詳しい解説）

“授業の概要・背景”は、2019年度シラバスから設けられた項目ですが、実際には新しい内容ではありません。これまで、授業内容選定にいたった経緯（背景）や本授業で学ぶ意義は、従来版のシラバスで言う“授業目的”もしくは“到達目標”に記載されていました。それらの内容は学生が授業内容をより深く理解する上で重要ではあるものの、記載位置が担当教員によって異なるため、学生自身のニーズに沿った授業かどうかを判断するのに、学生は時間を要していたのではないかと考えます。

そこで、2019年度シラバスから、学生によるニーズとの合致の検討をより容易にするために“授業目的”と“到達目標”を可能な限り簡略化することができるよう工夫しました。“授業の概要・背景”は任意記入項目ではありますが、これまで“授業目的”や“到達目標”に書ききれなかったことを記入いただくことで従来通り学生が授業に対して理解を深めることができると考えます。

成績評価【必須項目】

記入方法

(1) 成績をどの項目（種別）でつけるのかを明示してください。「定期試験」「定期レポート」「授業中試験」「平常レポート」「その他」の中から選んでください。

(2) 各種項目別の割合を合計 100%になるよう記入してください。

【注1】種別で「その他」を選択した場合は、「評価基準等」の入力が必須になります。その際、下記のように抽象的な記述はしないでください。

- ・ 詳細は授業中に指示する
- ・ 春学期と同様にする
- ・ 未定

【注2】種別で「その他」を選択した場合、「評価基準等」に出席することに対して点数を付与するような内容は記入しないでください。授業中に行った学習活動（例えば授業中に提出を課した小問題や、学習の振り返りペーパーなど）に対して点数を付与してください。

★ 記入例 * 詳細は p. 36 を確認してください。

項番 No.	削除 Delete	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Criteria etc.
1	<input type="checkbox"/>	01 定期試験	50 %	
2	<input type="checkbox"/>	04 平常レポート	30 %	
3	<input type="checkbox"/>	99 その他	20 %	グループワークへの参加態度、積極性

種別で「その他(Others)」を
If you choose その他(other)

未選択
01 定期試験
02 定期レポート
03 授業中試験
04 平常レポート
99 その他

「評価基準等」の入力が必須になります。
min Grading Criteria etc is required.

行追加

成績評価担当者

成績評価備考（任意）、成績評価確認



成績評価備考記入方法

成績評価欄に入力した内容以外で、特筆すべきことを書いてください。



記入例

Ex. 1) 定期試験は原則持ち込み資料を不可とします。ただし、授業担当者指定の計算機に関しては、持ち込みを可とします。

Ex. 2) 授業中試験は、LUNA 上への提出を原則としますので、IDとパスワードが使えるよう常に管理をしてください。



成績評価確認記入方法

試験実施方法調査の際に利用しますので、シラバス作成時に入力の必要はありません。詳細は試験実施方法調査の時期にご連絡します。



参考図書

リンダ・サスキー（2015）『学生の学びを測るアセスメント・ガイドブック』玉川大学出版部

半田智久（2011）『成績評価の厳正化と GPA 活用の深化～絶対的相対評価／教員間調整／Functional GPA～』地域科学研究会高等教育情報センター

授業計画【必須項目】、授業外学習【必須項目】



授業計画記入方法

原則として各回の枠に1回ずつの授業内容を記入してください。その際、毎回の授業内容の違いが分かるようにし、箇条書きのような形で記入することを推奨します。ただし、授業形態等により毎回の授業回での記入が難しい場合は各回欄の下にある「まとめ欄」に一括して記入してください。内容だけでなく、その日の授業方法（例えば、講義が中心になる日や演習が中心になる等）などを追記することでより学生が授業について理解をしやすくなると思います。授業方法については、p.26を参照してください。レポートのテーマや提出期限等があらかじめ具体的に決まっている場合は、授業計画に記入することを推奨します。



授業外学習記入方法

授業外で取り組む予習・復習課題の内容がわかるよう箇条書きのような形式で記入してください。その際、予習・復習がどの授業に対するものなのかが学生に伝わりやすくなるよう留意してください（例えば、予習はその回の授業に向けたものなのか、その回の授業を終えて次回授業に向けたものなのかで意味が異なります）。ただし、授業形態等により毎回の授業回での記入が難しい場合は、授業計画の下にある「まとめ欄」に一括して記入してください。



授業計画と授業外学習の記入例①（各回欄への記入例）

授業回	授業計画	授業外学習
第6回	【講義】 テーマ：自然主義を導くパトス 【議論】 グループ内議論：自然主義への批判	【復習課題】 振り返りシートの提出：2つのパトスをどう捉えたのか 【予習課題】 教科書 pp.5～10 を読む
第7回	【前回授業の復習】 アクティビティ：振り返りシートの紹介 【講義】 テーマ：固有心理的統一としての人間	【復習課題】 振り返りシートの提出：心身的依存性について 【予習課題】 教科書 pp.24～28 を読む

★ 授業計画と授業外学習の記入例②（各回欄への記入例）

授業回	授業計画	授業外学習
第3回	<p>【講義】</p> <p>テーマ：学力の3要素と主体的・対話的で深い学び</p>	<p>【予習課題】</p> <p>第3回授業までに第2回授業で配布した資料（no.5）を事前に読んでくること</p> <p>【復習課題】</p> <p>第2回授業終了時に配布する確認シートに取り組み、自分で答え合わせをすること</p>

★ 授業計画と授業外学習の記入例③

（集中講義の授業計画と授業外学習をそれぞれまとめ欄に記入した場合）

<p>授業計画</p> <p>※各回ごとの授業計画が難しい場合のみ記入してください。</p>	<p>第1～2回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題提起 ・福島県庁職員による福島県の現状に関する解説 ・取り組むテーマに関するディスカッション <p>第3～4回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取り組むテーマに関するディスカッション ・調査方法に関する実習 ・リサーチクエスチョン（問い）の立て方 ・先行研究レビューの方法 ・データ収集の方法 <p>第5～8回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福島県でのフィールドワーク ・専門家によるエネルギー問題に関する解説（本学教員及び外部講師） ・専門家を交えたエネルギー問題に関するディスカッション <p>第9～10回、第11回～12回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門家によるエネルギー問題に関する解説（本学教員及び外部講師） ・専門家を交えたエネルギー問題に関するディスカッション <p>第13～14回</p> <ul style="list-style-type: none"> ○発表、ディスカッション ○リフレクション
--	---

授業外学習 ※各回の授業外学習設定が難しい場合のみ記入してください。	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループで集まり、授業回ごとのグループ課題に取り組むこと ・個人レポート課題の提出に向けて、準備すること ・グループ発表に向けて、準備すること
---------------------------------------	---

参考資料（少し詳しい解説）

- ①授業計画を書く際、授業ごとの内容の違いが理解できるよう留意してください。例えば、一回目と二回目の授業の内容が「基礎理論を学ぶ（1）」と「基礎理論を学ぶ（2）」であった場合、両者の具体的な違いを学生が理解できない可能性は高くなります。テーマを追記するなどしてください。
- ②大学設置基準により、1単位あたりの授業時間は「講義・演習＝15～30時間の授業で1単位、実習実験・実技＝30～45時間の授業で1単位」と定められています。そして、1単位あたりの自習時間は予習（1時間）復習（1時間）あわせて2時間に設定されています。つまり、2単位の授業を行う場合、予習復習あわせて毎週4時間の自習を想定して授業を計画する必要があります。この時間に相当するような予習復習の指示をお願いします。また、具体的にかかる時間の目安を書いていただくと、学生は学習計画を立てやすくなりより親切なシラバスとなります。
- ③学期開始前に執筆した授業計画と、実際の授業進度のズレは頻繁に生じます。授業は実際の受講生の予備知識や理解力、授業出席率等の影響を受けるため、授業計画とのズレを避ける事は困難です。そのため、下記タイミングでのシラバス利用を推奨しています。
 - a)授業初回のオリエンテーション時

学生は事前にシラバスを読んだ上で授業に参加していることが前提となりますが、読み込みが十分でない場合や、履修時から時間がたったため詳細な内容を忘れてしまっている場合があります。そのため、授業初回のオリエンテーション時にシラバスを配布し、中身を確認しながら授業概要の説明をすることで改めて授業の目的や到達目標、授業計画を再認識させる事ができると考えられます。
 - b)授業計画に変更があった際

授業計画が変わった際には、都度配布することで学生の予習復習や課題提出に対する勘違いを防ぐ事ができると考えられます。
 - c)学期終了時

学期終了時に再度シラバスを使って1学期間の学びを確認することで、受講生が授業の目的や到達目標に基づき自らの成長を振り返る事ができると考えられます。
- ④レポート課題や小テスト等の具体的な情報を掲載する際は、受講生が授業の受講を判断し、学びのスケジュールを調整する上で重要です。どれだけ勤勉な学生であっても、特定の時期に複数の課題期限が重複すると、課題を通して十分に学ぶ事ができない可能性があります。学生が事前に計画を立てやすいよう、レポート課題や小テストなどの日程はできる限り具体的に授業計画に明記するよう心掛けてください。

授業方法【必須項目】

記入方法

授業の方法は、受講生が受講の判断を決定する際の重要な判断事項です。下記の用語を必要に応じて用いてください。

講義：教員が知識の詳細について解説します。基本的には教員が解説し、受講生はノートに記録することが学習活動の中心になります。ただし、教員と受講生間で質疑応答の場が設けられています。

演習：実験や実技等、実際に学生が取り組む学習活動が中心になります。

議論：学生間で議論する場が設けられています。ペアで行うだけでなく、グループで行う場合もあります。

発表：自分の学習した成果等をまとめて伝える学習活動が中心になります。

ペアワーク：2人1組になって行う学習活動です。

グループワーク：3名以上でグループを組み、学習活動を行います。

記入例

本授業では、講義型を中心とする。ただし、第3回、6回、8回、11回においては、ペアワークを中心とした議論を行い、最終的には5分間の発表を実施する。

参考資料（少し詳しい解説）

①講義一辺倒にするのではなく、様々な学習活動を取り入れることで学習効率が上がります。現在では、2000年以降の学習指導要領に基づいた授業を中学・高校で受けてきた学生が入学しています。そのため、教員の話聞いてノートに記録する活動に加え、教員から学んだ内容を自ら他者に解説する活動や、授業内容に関連する事について自らテーマ設定をして学びを深めることを好む傾向にあります。知識の定着が目的にせよ演習による創造力の修得が目的にせよ、教員による様々な工夫が盛り込まれた授業に慣れているのが、近年の学生がもつ特徴だと考えられます。

②アクティブラーニングに関する情報

授業方法に関する詳細は、高等教育推進センターのWebページにおいてTips集やURLを公開していますので、ご確認ください。

備考、関連科目、教科書、参考書（任意）



備考記入方法

倫理上問題がある（残虐性がある等）映像等の資料を扱う場合や授業中の飲食に関する禁止事項等を記入してください。

「主な教授言語」は教員が教授する際に用いる言語を1つ選んでいただいていますので、日本語と外国語を併用する場合など、必要があればおおよその比率をここにお書きください。



備考記入例

- ・授業中に手術映像など、人によって不安・不快に感じる可能性のある資料を使用します。
- ・日本語を6割、英語を4割で授業を行います。（主な教授言語で日本語を選択した例）



関連科目記入方法

事前に履修しておくことが望ましい科目や関連の深い科目などを記入してください。その場合、「・・・を修得済であることが前提である」ではなく「・・・を修得していることが望ましい」等、語弊がないよう記載内容には注意してください。



関連科目記入例

本授業を受講するにあたり、事前に「統計学基礎」を受講していることが望ましい。
また、並行して「実践統計学応用編」を受講することで、より理解が深まると考えられる。



教科書記入方法

実際に授業で使用する「教科書」の書名・著者名・発行所・出版年を記入してください。ISBNも分かる場合は記入してください。



参考書記入方法

授業に関係する「参考書」等の資料を指定する場合は、教科書と同じ要領で記入してください。

検索キーワード、添付ファイル、URL リンク（任意）



検索キーワード記入方法

授業を検索する際、学生が自分の学びたい内容について適切なキーワードを思いつくとは限りません。学生が興味・関心のある授業を探しやすいよう、検索キーワードを記入してください。スペース区切りをすることで、複数のキーワードを指定することができます。文字数制限は 100 文字です。単語と単語の間は、スペースで区切ってください。また、シラバス検索機能はキーワード欄に記入した単語による検索のみで、全文検索機能はありません。



添付ファイル記入方法

5つを上限にファイルの添付が可能です。授業に関連する資料を必要に応じてアップロードしてください。



URL リンク記入方法

3件を上限に URL リンクを表示する事ができます。授業に関連する資料のリンクを必要に応じて記載してください。

Ⅱ 入力セクション

授業シラバス登録ページへのアクセス

🖥️ 授業シラバス登録のページへアクセスする

授業シラバスの登録や修正を行う際は、専用のページにアクセスする必要があります。このページには学内外からアクセスすることができます。下記手順に沿ってアクセスをしてください。

- ① 教学 Web サービス画面にアクセスし、ログインする。(https://webinfo.kwansei.ac.jp/)
- ② 画面下段にある「教務」のタブをクリックする。
- ③ 「シラバス登録」をクリックする。

*シラバスを閲覧するだけの場合は、「シラバス情報照会」をクリックしてください。

*ログイン後、何も操作をせず1時間経過すると自動でログアウトされます。入力したデータが消えてしまいますので適宜一時保存をしてください。


The screenshot shows the 'Teaching Web Service' interface. At the top, there is a navigation bar with '開学 教員 (学校法人)X教員' and buttons for '更新' and 'ログアウト'. Below this is a 'お知らせ' (Notice) section with a message about email delivery on 8/16. The main content area has tabs for 'お知らせ', '教務', 'キャリア', and 'マニュアル'. Under the '教務' tab, there are several menu items: '履修・成績', '成績登録', '授業', 'シラバス登録', 'シラバス情報照会', '休講状況照会', '履修カルテ(教職課程用)', '担当授業・時間割照会', and '補講状況照会'. Three callout boxes with arrows point to specific elements: the first points to the '教学 Web サービス' logo, the second points to the '教務' tab, and the third points to the 'シラバス登録' menu item.

① 教学 Web サービスにアクセス

② 「教務」のタブをクリック

③ 「シラバス登録」をクリック

当該授業の授業シラバスの検索

 担当する授業シラバスを検索する

- ① 「シラバス登録 条件指定画面」にて、当該科目が実施される年度を選択する。
- ② 年度を選択後、「検索」をクリックする。




シラバス登録 条件指定画面

ログイン日時:2018/06/25 14:20:05 関学 太郎(教員) ログアウト / Logout

検索条件

授業開講年度 Year 西暦 2020 年度 ~ 西暦 2021 年度

検索/Search リセット/Reset

 ②検索をクリック

- ③ 「シラバス登録 結果一覧画面」に、担当科目が表示されるので、新規入力したい授業のアイコンをクリックする。



シラバス登録 結果一覧画面

ログイン日時:2018/06/25 14:48:04 関学 太郎(教員) ログアウト / Logout

シラバス情報

1 / 1ページ ページ 100 表示件数 100 GO チェックボックス 全選択 全解除 反転

項番 No.	機能 Function	クリア Clear	授業管理部署 Administrative Department	授業コード Course Code	授業開講年度 Year	履修期 Term	代表科目コード Subject Code	授業名称 Name	シラバス投稿状況 Status of Syllabus Submission	代表教員番号 Instructor Number	代表教員名 Name
1	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	総合政策学部 / School of Policy Studies	29536000	2020年度	春学期 / Spring	295360	GIS演習I / Design Skills : GIS 1	投稿完了	090035	関学 太郎(KWANGAKU TAROU)
2	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	総合政策学部 / School of Policy Studies	29537000	2020年度	秋学期 / Fall	295370	GIS演習II / Design Skills : GIS 2	投稿完了	090035	関学 太郎(KWANGAKU TAROU)
3	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	総合政策学部 / School of Policy Studies	29641026	2020年度	通年 / Year Round	296410	研究演習I 26 / Research Seminar 1	投稿完了	090035	関学 太郎(KWANGAKU TAROU)
4	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	総合政策学部 / School of Policy Studies	29643026	2020年度	通年 / Year Round	296430	研究演習II 26 / Research Seminar 2	投稿完了	090035	関学 太郎(KWANGAKU TAROU)
5	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	総合政策学部 / School of Policy Studies	29676000	2020年度	秋学期 / Fall	296760	建築環境工学 / Environmental Engineering	投稿完了	090035	関学 太郎(KWANGAKU TAROU)
6	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	総合政策学部 / School of Policy Studies	29677000	2020年度	秋学期 / Fall	296770	建築環境工学実験 / Environmental Engineering Laboratory Experiment	投稿完了	090035	関学 太郎(KWANGAKU TAROU)

クリア/Clear 戻る/Back

画面印刷 / Print メインメニューへ戻る / Main Menu

 ③アイコンをクリック

授業の基本情報の入力（授業目的や到達目標など）

 授業の基本情報を入力する

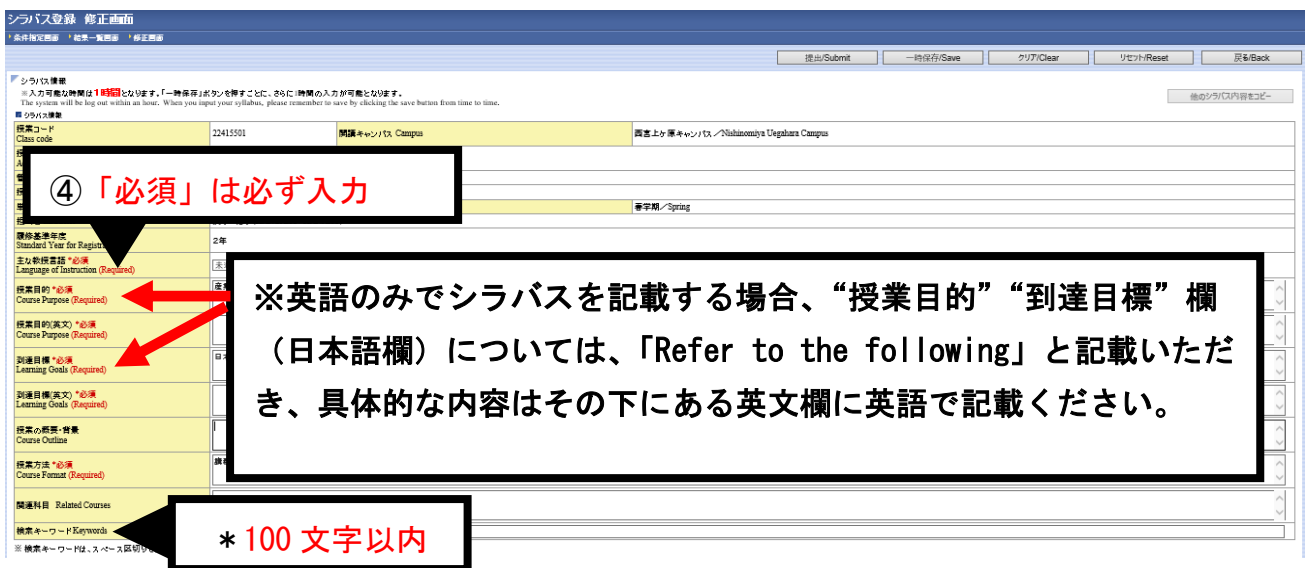
④各項目の内容を入力する。

* **必須**と書かれている項目は**必ず入力**してください。

* “授業計画”・“授業外学習”は原則として各回の欄に入力してください。ただし、授業形態等により毎回の授業回での記入が難しい場合は授業計画の下にある「まとめ欄」に一括して記入してください。各回の入力欄を未入力にした場合、シラバス照会画面上では「空白」で表示されます。

* “主な教授言語欄”は、「授業が何語で主に行われているのか」を明確にするために、2019年度より新設しました。「日本語」、「英語」、「フランス語」、「ドイツ語」、「中国語」、「朝鮮語」、「スペイン語」の7項目から選択可能です。

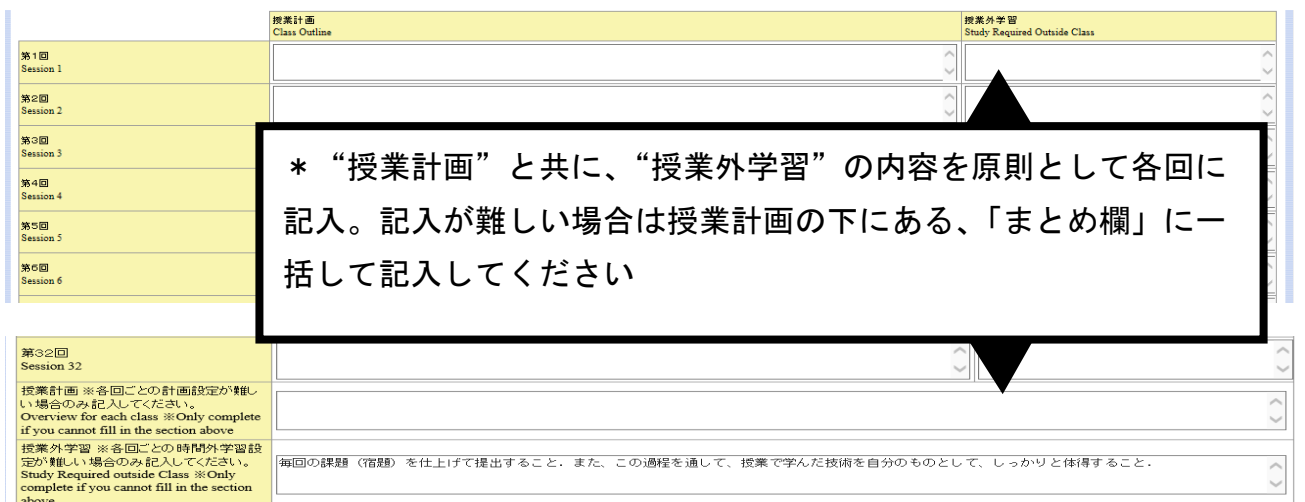
* “検索キーワード”は学生が学びたい、関心がある事項で、関係する科目を検索するために使用されます。検索キーワード欄の**文字数制限は100文字**で、スペース区切りで複数指定可能です。



④「必須」は必ず入力

※英語のみでシラバスを記載する場合、“授業目的”“到達目標”欄（日本語欄）については、「Refer to the following」と記載いただき、具体的な内容はその下にある英文欄に英語で記載ください。

* 100文字以内



授業計画 Class Outline

授業外学習 Study Required Outside Class

第1回 Session 1

第2回 Session 2

第3回 Session 3

第4回 Session 4

第5回 Session 5

第6回 Session 6

第32回 Session 32


授業計画 ※各回ごとの計画設定が難しい場合のみ記入してください。 Overview for each class ※ Only complete if you cannot fill in the section above

授業外学習 ※各回ごとの時間外学習設定が難しい場合のみ記入してください。 Study Required outside Class ※ Only complete if you cannot fill in the section above

毎回の課題（宿題）を仕上げて提出すること。また、この過程を通して、授業で学んだ技術を自分のものとして、しっかりと体得すること。

* “授業計画”と共に、“授業外学習”の内容を原則として各回に記入。記入が難しい場合は授業計画の下にある、「まとめ欄」に一括して記入してください

教科書・参考書の入力

 教科書・参考書を入力する。

⑤教科書・参考書を入力する。複数ある場合は、「行追加」をする。

* 特定の書籍を指定しない場合は、“教科書”“参考文献”欄には「教科書は指定しない」、「授業中に配布する」等を記入してください。

* 教科書・参考書の登録上限数は 10 件です。超過する場合は教科書・参考文献のフリー入力欄に入力してください。

* “OPAC へのリンク”は、図書館の書誌検索システム OPAC へのリンクボタンです。書誌情報を調べの際にご利用ください。⑤で入力した内容に関連した画面が表示されるわけではありません（閲覧用のシラバス情報照会画面では、入力内容に関連したページが開きます）。



教科書 (Textbook(s))

チェックボックス 全選択 全解除 反転

項番 No.	削除 Delete	タイトル Title	著者名 Author	発行所 Publisher	出版年 Year of Publication	ISBN	
※最大10件まで登録可能です。 * Up to 10 items can be registered.							
						行追加/Add	OPACへのリンク

教科書フリー入力欄

⑤「行追加」をクリックして記入欄を追加する

参考文献 (References Books)

チェックボックス 全選択 全解除 反転

項番 No.	削除 Delete	タイトル Title	著者名 Author	発行所 Publisher	出版年 Year of Publication	ISBN	
※最大10件まで登録可能です。 * Up to 10 items can be registered.							
						行追加/Add	OPACへのリンク

参考文献・資料 (References Books)

その都

参考文献フリー入力欄

学生による授業評価の方法 (Course Evaluation by Students)

全学統一様式による調査

成績評価の方法や内容の入力／シラバス付加情報の添付

成績評価の方法や内容を入力する

⑥成績評価の対象となる項目の割合や評価基準を入力する。

* “成績評価確認”欄はシラバス入力時には利用しません。

* 評価対象の割合が合計100%になるようにしてください。

* 種別で「その他」を選択した場合、“評価基準等”の入力欄に詳細内容に関する入力が必要です。

⑦必要に応じて「行追加」をクリックして入力欄を追加する。

* 行を削除したい場合は、削除する行のチェックボックスにチェックを入れ、「一時保存」あるいは「提出」をクリックしてください。

⑥評価対象の項目を選択し、割合を記入する

No.	Delete	種別	割合 Percentage	評価基準等 Grading Criteria etc.
1	<input type="checkbox"/>	01 定期試験	50 %	
2	<input type="checkbox"/>	04 平常レポート	30 %	
3	<input type="checkbox"/>	99 その他	20 %	グループワーク

⑦行追加をクリックして記入欄を作る

* 合計 100%

* 「その他」を選択した場合は“評価基準等”の入力欄の入力が必要

付加情報を添付する

⑧授業に関連する付加情報がある場合は「参照」を押してファイルを選択し、添付する。

成績評価備考
Method of or Criteria for Evaluation Note

成績評価確認
Confirmation of Evaluation Criteria Method

シラバス付加情報

備考
Note

⑧「参照」をクリックしてファイルを添付

添付ファイル	削除	参照...	説明
添付ファイル1 File Attachment 1	<input type="checkbox"/>	参照...	説明1 Explanation 1
添付ファイル2 File Attachment 2	<input type="checkbox"/>	参照...	説明2 Explanation 2

入力した情報の保存／提出／修正

入力した情報を保存／提出する

⑨入力した情報を一時保存する。

⑩一時保存した内容を確認し、提出する。

*入力した内容をリセットする場合は、リセットボタンを押す。ただし、一時保存あるいは提出した内容は元に戻りません。

添付ファイル3 File Attachment 3	<input type="checkbox"/> 削除	<input type="button" value="参照..."/>	説明3 Explanation 3	<input type="text"/>
添付ファイル4 File Attachment 4	<input type="checkbox"/> 削除	<input type="button" value="参照..."/>	説明4 Explanation 4	<input type="text"/>
添付ファイル5 File Attachment 5	<input type="checkbox"/> 削除	<input type="button" value="参照..."/>	説明5 Explanation 5	<input type="text"/>
URLリンク1 URL 1	<input type="text"/>		URL表示名1 URL 1	<input type="text"/>
URLリンク2 URL 2	<input type="text"/>		URL表示名2 URL 2	<input type="text"/>
URLリンク3 URL 3	<input type="text"/>		URL表示名3 URL 3	<input type="text"/>
更新日時 Date of Update				

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	教室名
1	2020年度	秋学期/Fall	金曜1時限	III-102

⑨ 「一時保存」して入力内容を保存

提出/Submit 一時保存/Save リセット/Reset 戻る/Back

画面印刷 / Print メインメニューへ戻る / Main Menu

⑩ 「提出」を押せば入力完了

一時保存した内容を修正する

⑪修正する場合は、シラバス登録・条件指定画面を表示し修正したい科目のアイコンをクリックする。

ログイン日時: 2018/06/26 09:49:25 関学 太郎(教員) ログアウト / Logout

シラバス登録 結果一覧画面

シラバス情報

項番 No.	機能 Function	授業管理部署 Administrative Department	授業コード Course Code	授業期 Year	履修期 Term	代表科目 コード Subject Code	授業名称 Name	シラバス投稿状況 Status of Syllabus Submission	代表教員番号 Instructor Number	代表教員名 Name
1	<input checked="" type="checkbox"/>	総合政策学部 / School of Policy Studies	29536000	2020年度	春学期 / Spring	295360	GIS演習I / Design Skills : GIS 1	投稿完了	090035	関学 太郎(KIWANGAKU TAROU)
2	<input checked="" type="checkbox"/>	総合政策学部 / School of Policy Studies	29537000	2020年度	秋学期 / Fall	295370	GIS演習II / Design Skills : GIS 2	未入力	090035	関学 太郎(KIWANGAKU TAROU)
	<input type="checkbox"/>	総合政策学部 / School of Policy Studies	296410			296410	研究演習I 26 / Research Seminar 1	投稿完了	090035	関学 太郎(KIWANGAKU TAROU)
	<input type="checkbox"/>	総合政策学部 / School of Policy Studies	296430			296430	研究演習II 26 / Research Seminar 2	入力中	090035	関学 太郎(KIWANGAKU TAROU)
3	<input checked="" type="checkbox"/>	工学部 / School of Engineering	29676000	2020年度	秋学期 / Fall	296760	建築環境工学 / Environmental Engineering	未入力	090035	関学 太郎(KIWANGAKU TAROU)
6	<input checked="" type="checkbox"/>	総合政策学部 / School of Policy Studies	29677000	2020年度	秋学期 / Fall	296770	建築環境工学実験 / Environmental Engineering Laboratory Experiment	投稿完了	090035	関学 太郎(KIWANGAKU TAROU)

⑪機能の列にあるアイコンを押す

クリア/Clear 戻る/Back

画面印刷 / Print メインメニューへ戻る / Main Menu

⑫修正後、「一時保存」を押して修正内容を保存する。

⑬修正内容を確認し、「提出」を押す。

*クリアボタンを押すと、入力内容が全て削除されます。

*リセットボタンを押すと、入力内容が初期値（修正を始めた時の状態）に戻ります。ただし、一度一時保存あるいは提出した内容は元に戻りません。

■シラバス付加情報			
備考 Note	<input type="text"/>		
添付ファイル1 File Attachment 1	<input type="checkbox"/> 削除 <input type="button" value="参照..."/>	説明月1 Explanation 1	<input type="text"/>
添付ファイル2 File Attachment 2	<input type="checkbox"/> 削除 <input type="button" value="参照..."/>	説明月2 Explanation 2	<input type="text"/>
添付ファイル3 File Attachment 3	<input type="checkbox"/> 削除 <input type="button" value="参照..."/>	説明月3 Explanation 3	<input type="text"/>
添付ファイル4 File Attachment 4	<input type="checkbox"/> 削除 <input type="button" value="参照..."/>	説明月4 Explanation 4	<input type="text"/>
添付ファイル5 File Attachment 5	<input type="checkbox"/> 削除 <input type="button" value="参照..."/>	説明月5 Explanation 5	<input type="text"/>
URLリンク1 URL 1	<input type="text"/>	URL表示名1 URL 1	<input type="text"/>
URLリンク2 URL 2	<input type="text"/>	URL表示名2 URL 2	<input type="text"/>
URLリンク3 URL 3	<input type="text"/>	URL表示名3 URL 3	<input type="text"/>
更新日時 Date of Update	2017年01月23日 14時55分08秒		

■教室情報			
項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period
1	2020年度	通年 / Year Round	月曜の時間 III-229

⑫ 「一時保存」して入力内容を保存

⑬ 「提出」を押せば入力完了

提出/Submit 一時保存/Save クリア/Clear リセット/Reset 戻る/Back

画面印刷 / Print メインメニューへ戻る / Main Menu

一度作成した授業シラバスのコピー



授業シラバスをコピーする

⑭ シラバス情報保守 新規登録画面を表示する。(p.32～を参照)

⑮ 「他のシラバス内容をコピー」を押す。

シラバス情報保守 新規登録画面

提出/Submit 一時保存/Save リセット/Reset 戻る/Back

シラバス情報

※入力可能な時間は10時間となります。「一時保存」ボタンを押すごとに、さらに1時間の入力が可能となります。
The system will be log out within an hour. When you input your syllabus, please remember to save by clicking the save button from time to time.

他のシラバス内容をコピー

⑮ 「他のシラバス内容をコピーする」を押す

授業コード Class code	29537000	開講キャンパス Campus	神戸大学経済経営学院 School of Business Administration
授業開講年度 Academic Year	2020年度		
管理部署 Administrative Department	総合政策学部 / School of Policy Studies		
授業名称 Class Title	GIS演習II / Design Skills : GIS 2		
単位数 Credit	2	開学期 Term	秋学期 / Fall
担当者 Instructor	関学 花子 (KANGAKU HANAKO)		
標準登録年度 Standard Year for Registration	3年		
主な教授言語 Language of Instruction	未選択		
特記事項 Special Instruction			
授業目的 *必須 Course Purpose (Required)			
授業目標(英文) *必須 Course Purpose (Required)			
到達目標 *必須 Learning Goals (Required)			
到達目標(英文) *必須 Learning Goals (Required)			

⑯ コピー元となるシラバスを選択する。

⑰ 「授業選択」を押す。

*前年度のシラバスをコピーする事は可能ですが、授業を実施する中で明らかになった修正点は次年度のシラバスに反映させていただきます。

教員氏名漢字名称 Name 関学

教員氏名カナ名称 Name

教員氏名英字名称 Name

検索/Search リセット/Reset 戻る/Back

シラバス情報

1 / 1 ページ | ページ 1 | GO | 表示件数 100 | GO

⑯ コピー元のシラバスを選択

項	授業コード	授業開講年度	科目コード Subject Code	授業名称 Name	代表教員番号 Instructor Number	代表教員名 Name	
			Spring	224155	近現代作品研究 1 / St.Md Ct.Lit Wks	972630 関学 テスト(KWANGAKU TEST)	
			Fall	242150	日本文学B / Japanese Literature B	972630 関学 テスト(KWANGAKU TEST)	
3	商学部 / School of Business Administration	26090000	2020年度	秋学期 / Fall	260900	日本文学B / Japanese Literature B	972630 関学 テスト(KWANGAKU TEST)
4	<input checked="" type="radio"/> 総合政策学部 / School of Policy Studies	29536000	2020年度	春学期 / Spring	295360	GIS演習II / Design Skills : GIS 1	090035 関学 太田(KWANGAKU TAROU)
5	<input type="radio"/> 総合政策学部 / School of Policy Studies	29641026	2020年度	通年 / Year Round	296410	研究演習II 26 / Research Seminar 1	090035 関学 太田(KWANGAKU TAROU)
6	<input type="radio"/> 総合政策学部 / School of Policy Studies	29643026	2020年度	通年 / Year Round	296430	研究演習II 26 / Research Seminar 2	090035 関学 太田(KWANGAKU TAROU)
7	<input type="radio"/> 総合政策学部 / School of Policy Studies	29677000	2020年度	秋学期 / Fall	296770	建築環境工学実験 / Environmental Engineering Laboratory Experiment	090035 関学 太田(KWANGAKU TAROU)

授業選択

⑰ 授業選択を押す

⑱ コピー内容を確認する。

シラバス情報保守 修正画面

提出/Submit 一時保存/Save クリア/Clear リセット/Reset 戻る/Back

シラバス情報
 ※入力可能な時間は1時間となります。「一時保存」ボタンを押すことに、常に1時間の入力が可能となります。
 The system will be log out within an hour. When you input your syllabus, please remember to save by clicking the save button from time to time.

シラバス情報

授業コード Class code	29677000	開講キャンパス Campus	神戸三田キャンパス/Kobe Sanda Campus
授業開講年度 Academic Year	2020年度		
管理部署 Administrative Department	総合政策学部 / School of Policy Studies		
授業名称 Class Title	建築環境工学実験 / Environmental Engineering Laboratory Experiment		
単位数 Credit	1	開講学期 Term	秋学期 / Fall
担当者 Instructor	関学 花子 (KANGAKU HANAKO)		
履修標準年度 Standard Year for Registration	3年		
主な教授言語 Language of Instruction	日本語		
特記事項 Special Instruction			
授業目的 *必須 Course Purpose (Required)	この授業の目的は、建築環境にまつわる実験を通して、身体感覚と物理環境の関係について理解し、それを空間提案に反映するための力を醸成することである。		
授業目的(英文)*必須 Course Purpose (Required)	The purpose of this laboratory course is for students to conduct experiments related to architectural environment in order to understand the relationship between somatic sensation and physical environment and be able to make proposals for spatial designs.		
到達目標 *必須 Learning Goals (Required)	本授業では、下記の点を到達目標とする。 1. 建築形態と屋外環境の関係から建築環境の状況を予測し、それを正しく示すことができるようになる。 2. 建築環境に関連する自然の諸要素のメカニズムについて理解し、それを空間に反映するための設計手法を提案できるようになる。		
到達目標(英文)*必須 Learning Goals (Required)	Students will be able to a. predict and properly express the architectural environment based on the relationship between the architectural form and outdoor environment, b. understand the elements of nature which are related to the architectural environment, and make their own design proposals reflecting their understanding of spatial		

* 2013 年度以前のシラバスをコピーする場合、体裁が異なりますので、別途、教務機構までご相談ください。

* 2018 年度以前のシラバスをコピーした場合は、各回ごとの「授業外学習」欄については、空白となります。各回の欄にそれぞれ入力してください。ただし、授業形態等により毎回の授業回での記入が難しい場合は授業計画の下にある「まとめ欄」に一括して記入してください。なお、各回の入力欄を未入力にした場合、シラバス照会画面上では「空白」で表示されます（下図参照）。

関連科目 Related Courses	建築環境工学	
検索キーワード Keywords	建築, 都市, 環境, 実験, 実測	
※検索キーワードは、スペース区切りで複数キーワードを指定可能です。		
	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	1. ガイダンスと光実験室を用いた室内光環境に関する実験（日本建築における光のコントロール） 建築設計において環境の諸側面を理解する事の重要性を考える。また、実験や実測を通して環境の諸要素を捉える化々のための基本的な方法論について解説する。同時に、光実験室を用いた、伝統的建築による、光のコントロール効果に関する実験を実施する。	
第2回 Session 2	2. 日本建築における光のコントロール一続き 光実験室を用いた、伝統的建築による光のコントロール効果に関する実験について結果の分析とそのとりまとめの方について指導する。	
第3回 Session 3	3. 緑化は本当に都市を涼しくするのか - 緑地と水面の熱環境実測調査 - その1 緑化面のクーリング効果について実習をおとて学ぶ。熱環境調査の手法と理論的背景について解説し、実際にキャンパスで緑地空間の熱環境現状に関する実測を行う。	
第4回 Session 4	4. 緑化は本当に都市を涼しくするのか - 緑地と水面の熱環境実測調査 - その2 実測でえられたデータをとりまとめの解析するための手法を解説する。学生は実測結果を解析し、その結果を解釈して建築や都市の緑化の意義とその課題について考察をする。	
第5回 Session 5	5. 快適なランドスケープの在り方とは - 都市気候屋外実測調査 - その1 屋外の熱環境、気候調査に関する主だった要素（気温、湿度、気流）を説明するとともに、その計測方法を紹介する。その上で実際の屋外空間を実測して、データを取りまとめの手法を学ぶ。	
第6回 Session 6	6. 快適なランドスケープの在り方とは - 都市気候屋外実測調査 - その2 実測結果を解析し、その結果を解釈することを通じて、建築や都市環境との関係から都市気候をコントロールする手法について考察する。	
第7回 Session 7	7. 業外縁をカットする建築・ランドスケープとは？ - 屋外と室内における業外縁調査の実測 - その1 業外縁調査方法及び業外縁実測。建築物の設計や設計、緑地などがこれに与える影響について実測して、そのメカニズムを理解する。	
第8回 Session 8	8. 業外縁実測結果	
第9回 Session 9	9. 窓際は意匠周辺	
第32回 Session 32	授業計画 ※各回ごとの計画設定が難しい場合のみ記入してください。 Overview for each class ※ Only complete if you cannot fill in the section above	上記の欄に変更することが想定される。
	授業外学習 ※各回ごとの時間外学習設定が難しい場合のみ記入してください。 Study Required outside Class ※ Only complete if you cannot fill in the section above	建築環境工学との関係が深いので、建築環境工学に関して平素から復習をしっかりとしておくこと。また、実験ごとのレポートにしっかりと取り組むこと。また、平素から建築物や都市の環境について関心をもちながら実際の建築物や都市環境に接する態度を身につけておくこと。設計の課題などにおいても、環境的側面からの問題意識を常に持ちながらこれに臨むこと。

“授業計画”と共に、“授業外学習”の内容を原則として各回に記入。記入が難しい場合は授業計画の下にある、「まとめ欄」に一括して記入してください

入力文字についての注意

- (1) 強調のためのアンダーラインや太字等は使用できません。
- (2) 2020年度シラバスよりユニコード対応を行いますので、英語以外の言語の文字も入力が可能になります。ただし、表示についてはシラバス閲覧者のパソコンに当該言語のフォントがインストールされている必要があるなど閲覧側の環境に依存する部分があります。
- (3) 半角カナは使用しないでください。

MEMO

2020 年度 授業シラバス執筆の手引き

<授業の魅力を分かり易く伝えるための書き方>

2019 年 10 月 1 日 第 1 刷発行

制作 関西学院大学 教務機構

高等教育推進センター

発行 関西学院大学 教務機構

© Kwasei Gakuin University All Rights Reserved 2019-2020